和漢
絵本魁
初編

前北斎改
画狂老人卍筆

書林
嵩山房
北林堂
梓

自序

有難き御代の民なる事寔に浮木北斎の
幸ひ也筆を携へ邊りに寓居し
年老功を日々に暄る西村來たる人に
書肆嵩山房主人例の板下乞ふて
梓なるを頼む其巻中画く治世に武を
忘れ給はす有名の壮士劉強か像を写し
て智仁勇の三編に兼備をくわへ学
深きすゑに引きたつ七十に余れる
老の身も屈伏て画きとりし
まうけ腰に光陰の筆を持ち刺へ天

的をはづさぬ左川春光唯中時に拍子に大当を雄が画本魁と表題して今年巳午乃口を取つて高点寄にむすびつ筆はしめけり誌す

天保七
丙申乃重陽

前北斎改
画狂老人卍述

華斎盛義書

多力雄の命（たぢからをのみこと）

豊玉姫の本形
とよたまひめ ほんたい
彦炎出見尊
ひこほゝでみのみこと

提婆達多鐵弓を彎

夏の禹王洪水を治

天児家根命（あまつこやねのみこと）
大蛇（おろち）の再生（さいせい）・磐永姫（いはながひめ）

画本魁初編

雷震銅梃を以
千里眼
順風耳を打殺

大伴の良雄

記の名虎

両孤の英雄
角觝に
力を挑む

北斎漫画初編

物部の守屋大臣

蒼海公
漢の張良

平親王将門
俵藤太秀郷

韓信
かんしん

伊豫ノ尉藤原の純友
橋の遠保純友を生捕

楚の項羽
烏騅と云
名馬を得

平井の保昌
土蜘蛛退治

樊噲鐵門を破

卜部靫負ノ浦
季武
姑獲鳥を懲す

夢中出現の
鍾馗

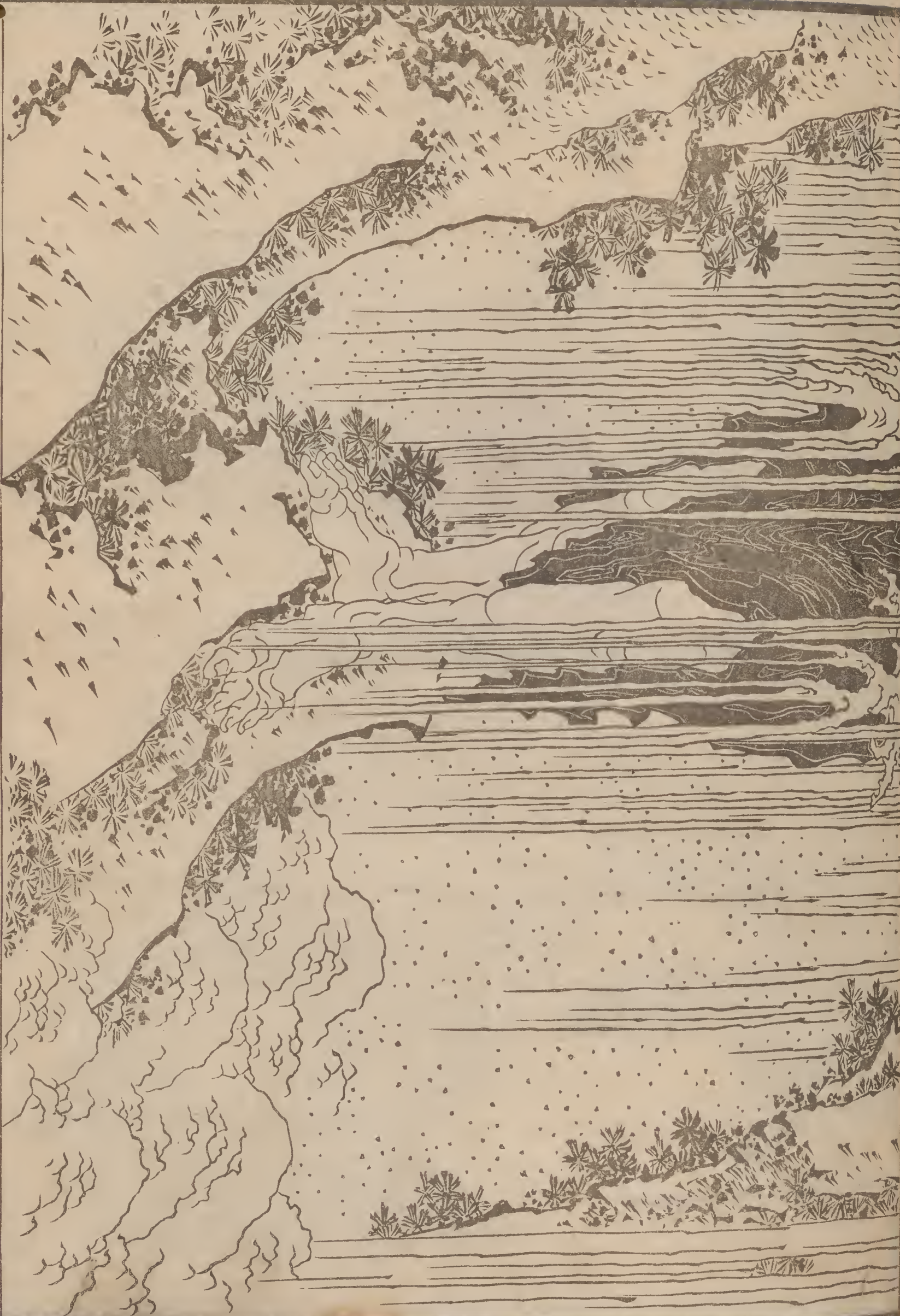
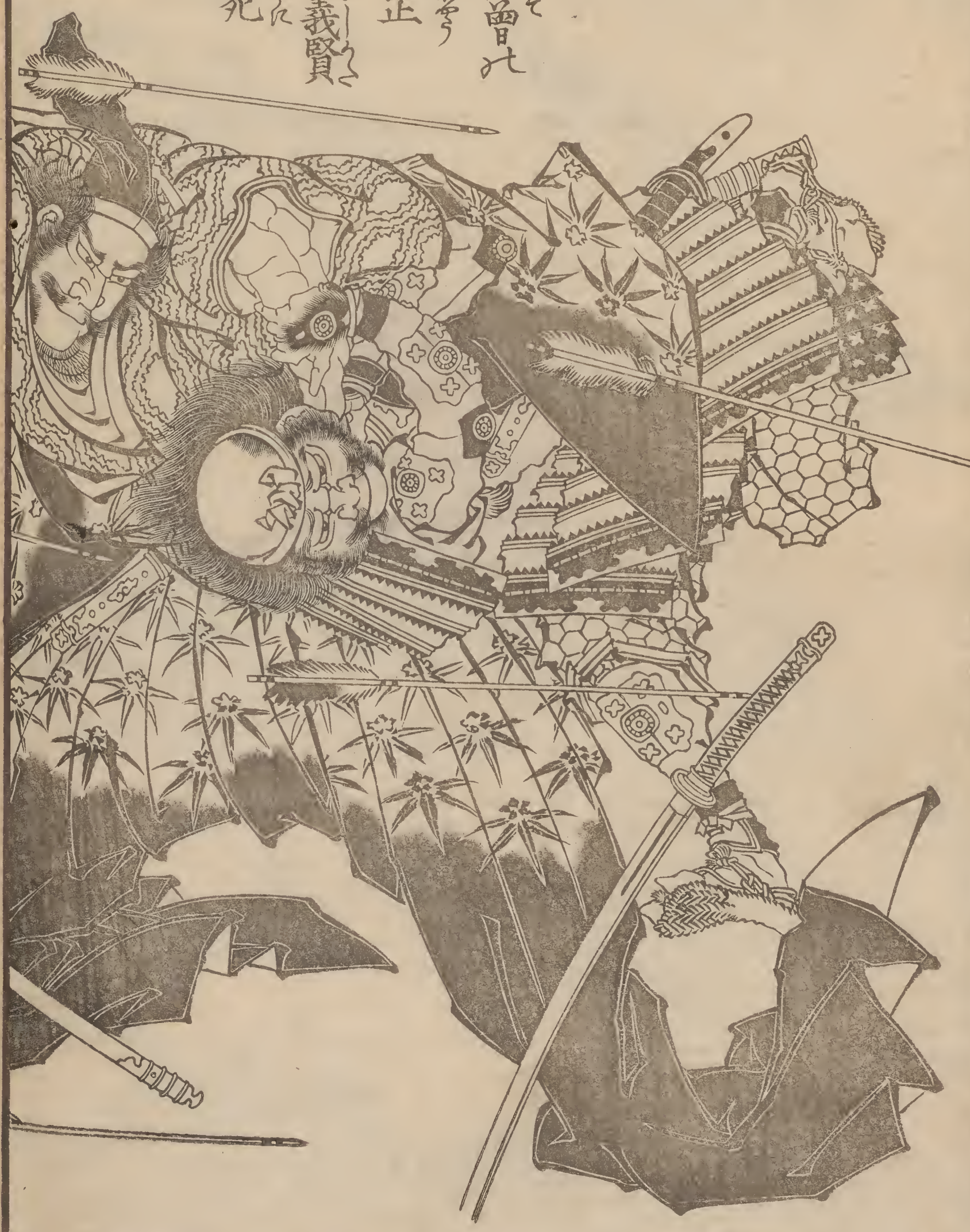
平忠盛(たいらのただもり)
怪僧(あやしきそう)を
捕(とらふ)ふ

孔明が智計
南蠻勢を
焼伐にす

鎌倉権五郎
景政勇力

隋の臣下
魔叔謀好で
小児の肉を喰

辨慶は幼立
鬼若丸
三井寺の
鐘を奪

矜羯羅童子
那智の滝に
門覺荒行
制多伽童子
佛師仏画の用する處を省き
人倫の骨格によつて形を圖

其二

木曽九膳正義賢討死

黒天雷（こくてんらい）綾振（りょうしん）梁山泊（りょうざんぱく）に子母炮（しぼほう）を發（はっ）す

范額女
怪力

天照皇太神宮御札

和唐内國性爺（わとうないこくせんや）
猛虎（まうこ）を随る（あさぐ）

忿怒勇猛の形を画んにハ
風流優美ならバ其ハ勢む
鈍しとなるべし雅画も又
時に應すべきあり艸筆ハ
別巻に顕すく

隠岐の次郎左エ門廣有
内裏に於て
怪鳥を退治す

備後の三郎高徳（びんごさぶろうたかのり）

天保六乙未年四月
齢七十六翁北斎爲一改
画狂老人卍筆

七十七齢 前北斎改 画狂老人卍筆

彫工 杉田金助 江川留吉

繪本魁初編 出来

同 二編

初学の人の為にいささか示す所の物を前に挙げ必ず扇に何の物を投ずるに擲を以て足にかかるもの多くは覆しと揚ぐるも突然と在るはまけその勝ちを引くべし余は巻中を探り述し自然と知るに因るべし

同 三編

明ずる口伝を廣く手足いう事を知りされど物の奥に熟しなくさかうちに木偶のごとく動ひは身振り鼓の風情のみ多し此編は甲冑を帯して屈伸自在なる形を示すもまづ骨格の正しかんことを示す

同 續編

前の二編は刀剣を初学の為に要を記つくしまた残部し此編に至りて稽古しかんを要に刺を中せずくして剣劇の業及び其心は略すべし

繪本唐詩選 五言律排律 画狂老人筆
七言律 同画 各五冊ツヽ

天保七丙申年正月發行

書肆

大坂心齋橋安堂寺町 秋田屋太右衛門
尾州名古屋本町 永樂屋東四郎
江戸芝神明前 和泉屋市兵衛
江戸中橋廣小路町 西宮彌兵衛
同日本橋通二丁目 小林新兵衛
同神田鍛治町 北島順四郎